

パーソナリティ心理学（後期）

| | | | |
|--------------|---------------------|--------|----------|
| 責任者・コーディネーター | 人間科学科心理学分野 藤澤 美穂 助教 | | |
| 担当講座・学科(分野) | 人間科学科心理学分野 | | |
| 担当教員 | 藤澤 美穂 助教 | | |
| 対象学年 | 1 | 区分・時間数 | 講義 21 時間 |
| 期間 | 後期 | | |

・学習方針（講義概要等）

「パーソナリティ personality」は、日本語では「人格」と訳され、その人の“人となり”のことを意味する。心理学において「パーソナリティ」は重要な概念のひとつで、臨床心理学、発達心理学、社会心理学、そして精神医学においても中心的な概念として機能している。

本科目では、心理学におけるパーソナリティの概念を整理し、パーソナリティ理解のために有用な心理学の諸理論を学ぶ。そして、個々人の個別性を理解し、「自分らしさ」「その人らしさ」を尊重できる態度を身につけることを目指す。

・一般目標（GIO）

こころや行動の個人差について、パーソナリティ心理学の諸理論から学ぶ。また、パーソナリティの発達について、精神分析の理論やライフサイクル論に基づき理解する。そして、パーソナリティを理解するための方法として、心理アセスメント技法の概要を理解する。

これらを通し、人間のこころと行動の多様性についての理解を深め、パーソナリティの個人差と個別性について学ぶことを目標とする。

・到達目標（SBO）

1. 人格と性格の違いについて理解し、説明できる。
2. パーソナリティの発達について理解する。
3. パーソナリティを理解するために用いられる心理アセスメント技法について、それらの方法論の特徴と限界について理解する。
4. パーソナリティが対人関係へどのように影響するか、考えることができる。
5. 「自分らしさ」「その人らしさ」を理解し、尊重できるようになる。
6. 健康なパーソナリティとはどういうことか、考えることができる。

・ 講義日程

【(矢) 東 1-A 講義室】

| 月日 | 曜日 | 時限 | 講座(学科) | 担当教員 | 講義内容 |
|-------|----|----|--------|----------|----------------------------|
| 9/11 | 木 | 2 | 心理学分野 | 藤澤 美穂 助教 | イントロダクション： パーソナリティとは |
| 9/18 | 木 | 2 | 心理学分野 | 藤澤 美穂 助教 | 人格と性格 |
| 9/25 | 木 | 2 | 心理学分野 | 藤澤 美穂 助教 | 類型論と特性論（1） |
| 10/2 | 木 | 2 | 心理学分野 | 藤澤 美穂 助教 | 類型論と特性論（2） |
| 10/23 | 木 | 2 | 心理学分野 | 藤澤 美穂 助教 | パーソナリティの発達（1）： 「わたし」とは |
| 10/30 | 木 | 2 | 心理学分野 | 藤澤 美穂 助教 | パーソナリティの発達（2）： ライフサイクル論 |
| 11/6 | 木 | 2 | 心理学分野 | 藤澤 美穂 助教 | アイデンティティとは |
| 11/13 | 木 | 2 | 心理学分野 | 藤澤 美穂 助教 | 血液型性格診断を心理学的に考える |
| 11/20 | 木 | 2 | 心理学分野 | 藤澤 美穂 助教 | パーソナリティの理解： 心理アセスメント（1） |
| 11/27 | 木 | 2 | 心理学分野 | 藤澤 美穂 助教 | パーソナリティの理解： 心理アセスメント（2） |
| 12/4 | 木 | 2 | 心理学分野 | 藤澤 美穂 助教 | パーソナリティと対人関係（1） |
| 12/11 | 木 | 2 | 心理学分野 | 藤澤 美穂 助教 | パーソナリティと対人関係（2） |
| 12/18 | 木 | 2 | 心理学分野 | 藤澤 美穂 助教 | パーソナリティの偏りについて考える |
| 1/8 | 木 | 2 | 心理学分野 | 藤澤 美穂 助教 | 自分らしさ、その人らしさの尊重の ために |

・教科書・参考書等

教：教科書 参：参考書 推：推薦図書

| | 書籍名 | 著者名 | 発行所 | 発行年 |
|---|-----------------------------|------|-----------|------|
| 教 | 新版 人格心理学 | 大山泰宏 | 放送大学教育振興会 | 2009 |
| 参 | はじめて学ぶパーソナリティ心理学 ―個性をめぐる冒険― | 小塩真司 | ミネルヴァ書房 | 2010 |

・成績評価方法

試験の成績を 60%、出席・受講態度を 15%、授業にて課すワークへの取り組み（態度・内容）を 25%として評価する。

・授業に使用する機器・器具と使用目的

| 使用区分 | 機器・器具の名称 | 台数 | 使用目的 |
|------|---|----|------------|
| 講義 | ノート型 PC (MacBook Air MD711J/A) | 1 | 講義資料の提示 |
| 講義 | プロジェクター | 1 | 講義資料・教材の提示 |
| 講義 | DVD(BR)プレーヤー | 1 | 教材の提示 |
| 講義 | 書画カメラ | 1 | 教材の提示 |
| 講義 | デスクトップ PC (iMac21.5 ZOMP CTO Education) | 1 | 講義資料の作成 |

フォームの終わり